

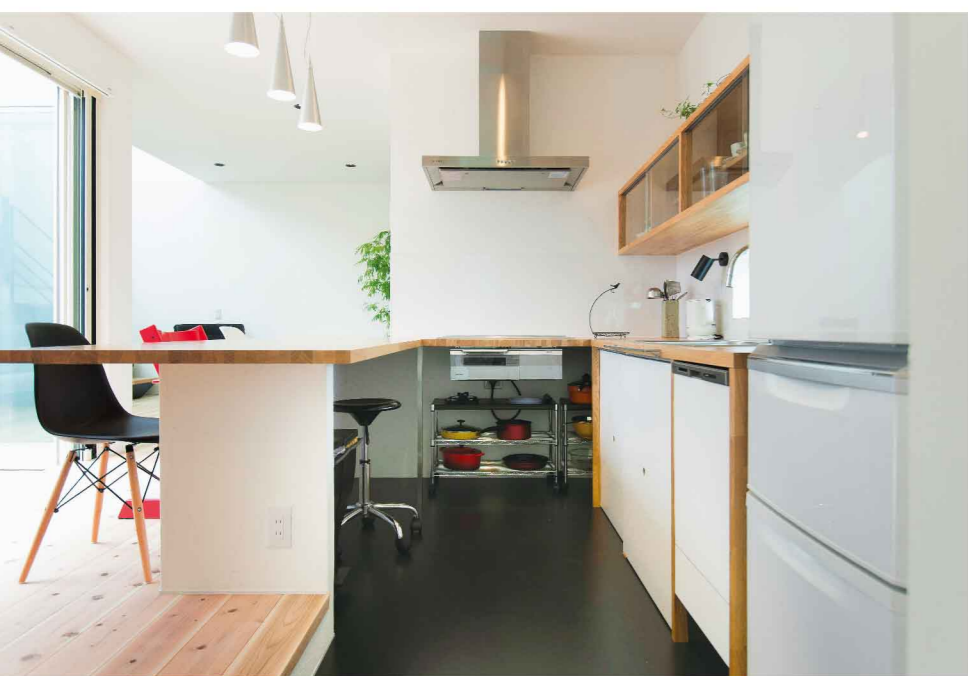
「SORAデザイン」がつくった
上益城郡在住 / Kさんの住まい

外はハコ、中は吹き抜け 限りなく自由で遊び心ある家

森や苔を思わせる、モスグリーンの外壁。
ドアと窓一つしか見えない、謎に包まれたハコ型の家には
自由で温かい空間が広がっていた。
暮らしや未来を楽しく描ける、
世界に一つだけの住まいの秘密に迫った。



広い天板のカウンターはダイニングテーブルも兼用。子どもの様子を見ながら料理が出来るのでママも安心



白が基調の空間の中で、黒がアクセントに。キッチンの床も黒色。カウンター下に鍋や料理道具の収納がたっぷり



シンプルな空間に、お気に入りの椅子が映えるダイニング



デザインに惚れて 人柄にもっと惚れて選んだ

カフェと見間違えそうな、モスグリーンの真四角なお家。個性的だけど目立ちすぎず、住宅街にも溶け込む優しい色だ。壁の中にあるレッドパイン製のドアを開いて出迎えてくれた、Kさん夫婦。「この緑色のお家の写

真を雑誌で見つけて、「同じようにしたい」って熱望したんですよ」と話してくれた。ここは、熊本地震で震度7を2度計測した益城町。住み始めて2カ月で被災したが、幸い家に被害はなかった。「デザイン重視で作ったつもりの家だったけど、耐震性なども当たり前で強くて、さすがSORAさん！って安心しました」と奥さま。まだ片付けに追われる大変な時期だったが、快く取材に応じってくれた。

「世界に一つだけの家をつくりたい」と思っていた夫婦がたどりついた「SORAデザイン」のホームページ。「施工例の写真はどれもデザイン性が高く、バリエーションも



正面からはドア一つしか見えない、不思議な外観

豊富。私達だけの1棟をかなえてくれそうと興味を持ちました。そしてある日、ふらりと予約もなく同社を訪ねると、「第一印象で私達に「合いそう」と直感しました」と振り返るご主人。対応してくれた社長とは、まるで旧来の友人のように、家への想いや要望を気さくに何でも話せた。「ここなら思い通りの家づくりがかないます」と確信したというご主人。自分たちの家をどう仕上げられるか、ワクワクが止まらなかった。



オーダーの洗面台もシンプルで飽きないデザイン。横には扉で隠せる洗濯機スペース



1階と2階を吹き抜けが繋ぎ、家全体に一体感が生まれている



壁に真っ白な珪藻土を塗ったシンプルな空間。床の杉材と合わせて、やさしい風合いを醸し出している



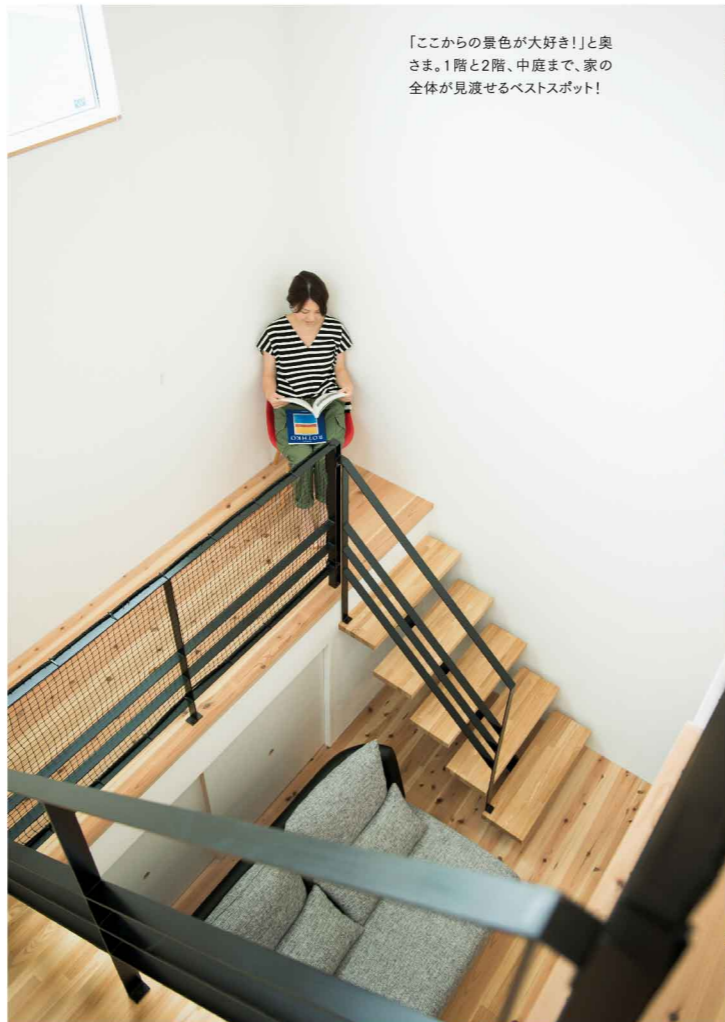
家のどこにいたって、みんなの気配を感じられる

いろんな場所に、わたしの居場所

パントリーの可動棚の使い勝手は抜群。壁につけたミニテーブルは、PC台にバッグ置きにと大活躍



「ここからの景色が大好き!」と奥さま。1階と2階、中庭まで、家全体が見渡せるベストスポット!



リビングのアクセントになっている階段のデザインは、[SORAデザイン]の提案。空間に躍動感を与えている



家族が自由気ままに
ラクして暮らせる家を



K邸は外からは、ほぼ壁しか見えないが、中に入ると明るく開放的で、そのギャップに驚かされる。玄関以外は中庭に面し、吹き抜けの高い位置に大きな窓があるため、圧迫感は無で自然光がさんさんと入るのだ。シンプルなハコ型、そして防犯面で外から守られる家が、夫婦が家づくりに出した最初の希望だった。

「間取りが決まるまではかなり時間をかけました。何しろ、かなえない夢が多くなって(笑)」と奥さま。その希望の多くは、「いかにこの家でラクに暮らすか」で占められたそう。例えば

キッチンには、奥さまが極力動かずにいろいろな作業ができるコの字型の造り。ダイニングテーブル兼カウンターに料理を出すのは楽々で、足元やパントリーの収納も十分。洗濯機や水廻りも近く、洗濯物干しまでのスムーズな動線も練りに練った。あらゆるデッドスペースに収納をつくったので、憧れのモノが少ない空間も実現した。

「この階段の踊り場がどうしても欲しかったんです」と隣で奥さまが熱弁する。リビングと2階への吹き抜けを回り込むアイアンの階段は、リビングの二部のように、座ったりくつろいだりもできる。この踊り場の角にお気に入りの椅子を置いて、読書をしながら家を眺めるのが、奥さまの好きな時間の過ごし方。そして、踊り場下の収納スペースは、今や2歳の息子さんのおもちゃの隠れ部屋だ。家族3人ともいろんな場所に「居場所」をつくって、思い思いに過ごす。ハコ形の家の中には、想像以上に自由で、躍動感のある、フレキシブルな空間が広がっている。



大好きな空間に囲まれて
心満たされるひととき

フルオープン窓は、ご主人
たっの希望でつけたもの
「この開放感は格別!!」



将来の日本代表!? 外に出る
心配がないので、奥さまも安心。
勝手口は駐車場に直結



水廻りからも中庭に出られるので、洗濯物を
干す動線もバッチリ



階段を上るとすぐ、広いフリースペース。2階というよりロフトのような雰囲気



2階から中庭を見下ろせるベランダ。
小窓から外の景色も楽しめる



さあ、広い中庭でなにをして遊ぶ?

私の
好きな場所

【中庭】
芝や土ではなく板張りにした中庭。LDKと段差も少なく、リビングダイニングの一部のように使える。ぜひたくな広さも自慢

インドアで、アウトドア
裸足で遊べる中庭

このお家は壁が少なく感じるぐらい広いですね、と話す。「それもこだわりなんです」と奥さまはニコリ。2階にあえて子ども部屋を設けず、代わりにフリースペースが広がっている。「子ども部屋として使えるし、子どもが巣立つたら趣味スペースにもできるし、とにかく自由に使える空間にしたかったです」。水廻りと寝室以外は、仕切りのない一つの空間になっている。

そして、杉板が貼られた中庭も自由な空間の一つ。ご主人こだわりのフルオープン窓を開けると、屋外なのにLDKにいるような、不思議な居心地の良さを感じる。「子どもと裸足でも遊べるし、友人とバーベキューをしたり、夏にプールを出したり、夜に親子で寝転がって天体観測したり…。これからどんな使い方をしようか、楽し

しみで仕方ありません」と語る奥さまの視線の先には、中庭を思い切り駆け回る息子さんの姿があった。

「好き」と楽しいが
めいっぱい詰まった住まい

学生時代サッカーをしていたご主人。息子さんに買い与えた世界大会公式球の定位置は中庭で、今は息子さんの良い練習場になっている。各部屋には、奥さまがお家に合わせて揃えた北欧デザイナーの椅子やソファ。世界でただ一つのハコ型の家は、家族の「好き」と楽しいであふれている。

「私達が望む家づくりにとことん付き合ってくれて、本当に感謝しています」とご夫婦。避難生活からここに戻ったとき、地震前と変わらない姿で、家族を守ろうとするかのように凛と建つ家に、この上ない安心を感じたそう。帰ってきて「ほつ」とできる家族の特別な居場所の価値は、計り知れない。